

「技術+心」で作る変圧器用ラジエーター ～いい会社を作り、オンリーワンの責任を全うする～

株式会社加積製作所 会社概要

本社所在地：富山県滑川市柴195

事業内容：電力機器用熱交換器及び冷却装置
の設計・製作・販売

設立年：1971年

売上高：1,737百万円

社員数：48名

2010年1月：グッドカンパニー大賞受賞



●インタビューアー

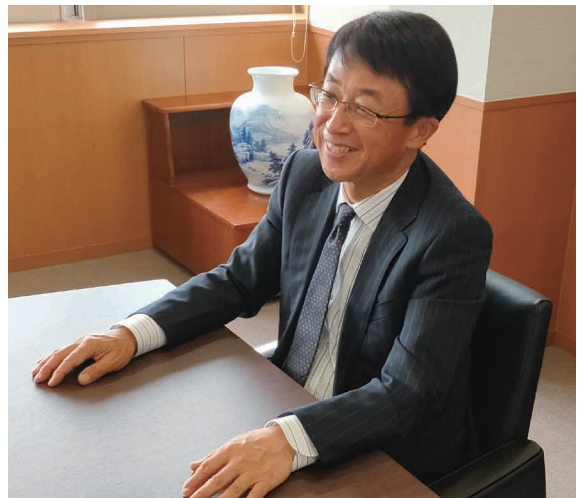
名古屋中小企業投資育成株式会社
常務取締役 五十嵐 健二

【五十嵐】平成12年の新規投資から今年で20年となりました。長きにわたりご愛顧いただき、ありがとうございます。さて、御社は来年で設立50周年を迎えるわけですが、最初に御社事業の沿革、パネルラジエーター製造のきっかけについて教えてください。

【福元】私の祖父が戦前から大阪でドラム缶等を製造していました。その工場が戦災で焼け、富山県のお客様に呼んでいただき工場疎開したことが当地への進出のきっか

株式会社加積製作所

代表取締役社長 福元 勝博 氏



福元 勝博 氏 プロフィール

1958年 富山県魚津市生まれ

1983年 大手電機機器メーカー入社

1986年 当社入社

1997年 専務取締役就任

2000年 代表取締役社長就任

趣味：ゴルフ

けです。そして、高度経済成長により電力需要が急拡大する中で、1971年に地場の変圧器メーカー様から相談があり、パネルラジエーターの開発に着手しました。当時大阪にも工場があり太陽熱温水器を作っていたのですが、その製造技術を生かして製品化ができました。そこで、当地の加積という地域名を使わせていただきパネルラジエーターの専門メーカーとして(株)加積製作所を設立しました。

【五十嵐】 パネルラジエーターとはどういうものなのでしょうか？

【福元】 発電された電力を送配電するための変圧器は、電圧を昇圧/降圧する時に発熱しますが、この熱をうまく放熱して変圧器の長寿命を実現するための機器がパネルラジエーターです。電力用変圧器の製品寿命は40年前後と長く、変圧器の重要部品であるパネルラジエーターも同程度の寿命を期待されます。

【五十嵐】 御社の競合先企業の動向はいかがでしょうか。

【福元】 競合は主に大手重電機メーカーの子会社でしたが、2000年頃からコストメリットを求めて次々と海外に進出していきました。海外製品も相応の品質ではあるものの数年経ったのサビや、微小な油の漏れ等のトラブルが発生し、一方、クレームの対応を求めても単に代品を提供することで終わらせてしまうという状況でした。ここ20年で3回ほど海外調達動きが加速する時期がありましたが、むしろ重要案件では高品質で長期間安心して使える弊社製品へのニーズが高まりました。

【五十嵐】 国内にとどまるという戦略が奏功したわけですね。

【福元】 はい。当初は海外の低価格製品との競争を余儀なくされると危惧していましたが、価格で勝負するのではなく、しっかりとした品質で不良品を納入しないことや、納期遵守を徹底しました。お客様が注文書を発行したら後は何も気にしなくてよい安心していただけるものづくりを目指しました。現在はパネルラジエーターを国内で製造する唯一のメーカーとなりました。



《変圧器設備 (中央が当社パネルラジエーター)》

《国内オンリーワンメーカーとしての供給責任》

【五十嵐】 改めて御社の強みについて教えてください。

【福元】 元々、他業界より参入したこともあって、製品設計や製造設備は自社独自のものになりました。製品における独自の構造や、製品の高品質を確保すべく主な製造設備を自社で作り上げていることが、弊社競争力の源であると思います。

【五十嵐】 国内オンリーワンメーカーであるが故の供給責任の重みについて教えてください。

【福元】 電力インフラを支える変圧器は社会生活を守るうえで重要な製品です。パネルラジエーターは他に国内で作れるところがないために、弊社側の都合で注文を断れない難しさがありません。大げさではありますが、弊社が無くなってしまったら日本の電力インフラは一体どうなってしまうのか、と考えることもあります。次に、パネルラジエーターはあくまで変圧器の一部品であり、変圧器の製作工程に合わせて納入する必要があるため、弊社から

納期の変更をお願いできないことです。また日本中の変圧器メーカーから同時期に大型物件の注文をいただくことがあり、仕事量の増減の幅が非常に大きく苦勞します。

【五十嵐】納期を守ることへの意識が徹底されているようですね。

【福元】はい。『納期絶対』という考えのもと、納期を守るためにどうするか、という発想で会社を作り上げてきました。お客様との綿密な発注予測や弊社の生産負荷の開示、安定した部材調達、信頼関係の構築された協力会社、工程管理や設備の安定稼働、良い製品を作ろうとする意識の高い経験豊富で真面目な社員。これら全てが満たされなければ納期は守れないと考えています。

【五十嵐】特に顧客から求められることはあるのでしょうか。

【福元】製品寿命が長いために10年前は当たり前、20年前に製造した製品についても問い合わせを受けることがある業界です。会社が存続、永続することが強く求められます。先代社長から聞いた話ですが、この業界は後継者のいない会社には仕事を出さないと言われたこともあります。



《本社工場全景》

《会社の永続、技術+心》

【五十嵐】会社の永続という点で意識されていることはありますか。

【福元】一般的に企業の寿命は30年と言われ、新製品の開発や新たな市場を開拓しなければ衰退していくとされています。成熟したマーケットにいる弊社においては、むしろ規模拡大は追わず、顧客の要求、市場の変化に着実に応えていくことで企業を存続させることが重要と考えています。

【五十嵐】『いい会社をつくりましょう』の社是でも注目を集める伊那食品工業を見学されたことが、永続を目指すきっかけとお聞きしました。

【福元】はい。お客様からいただいた仕事をきっちりやりとげることに全力を注いできましたが、社会が多様化する中で、会社の根っこになる考え方が必要だと考えるようになりました。社員がいい会社であると思えることや、いい会社になりたいと思う気持ちがあれば、お客様や社会に満足していただける製品作りができると考えています。

【五十嵐】具体的な取組についてはいかがでしょうか。

【福元】3年前から月初の社長朝礼でいい会社を作ることや企業の永続について思うことを話しています。内容はこうしなさいではなく、私の思いを伝え、社員がいい会社について考えるきっかけになればと思っています。特に大切なことは「まじめ」であること、「思いやり」を持つことだと思っています。

【五十嵐】御社のホームページに『技術+心』

とありますが、どのような意味を持つ言葉なのでしょう。

【福元】弊社がスタートした時は、お客様にラジエーターに必要とされる品質や技術を一から教えていただきました。しかしお客様もコア業務に集中されるなかでラジエーターのことについて知っている人はおられなくなっています。現在では、技術・品質的な問題がおこると、お客様から相談を受け、弊社が検討し回答するという事が多くなっています。

また、海外の同業メーカーを何社も見ましたが、どの会社も技術部門はほとんどありません。お客様がラジエーターの海外調達をされても、弊社にはラジエーターの技術や品質についての知見を守り高めていく責任があると考えています。

【五十嵐】オンリーワンの会社としての技術を守る大切さは分かりました。では『+心』は、どういう事でしょうか。

【福元】海外の工場を見学してもう一つ思ったことは、工場には経験豊富な作業者がいないという事です。

長期間安心して使っていただける製品を作るには、たとえ自動機を操作するにしても、製品の重要性をよく知った社員が作動ボタンを押すことが大切なのです。

ある時、エンドユーザーである大手鉄鋼メーカー様から弊社に直接電話があり、購入した変圧器に使われている海外製ラジエーターが不具合を起こして困っているとの相談を受けました。海外製ラジエーターと弊社製品のどこが違うのかと問われ、基本的なもののづくりは海外でも出来ているため回答に困った

のですが、ふと思いついたのは、私たちの会社では長年働いている社員が良いものを作ろうと心を込めてものづくりをしています。この『心』こそが海外製品と弊社製品との違いだとお答えしました。

【五十嵐】良いものを作ろうという『心』が大事ということですね。

【福元】はい。その鉄鋼メーカー様からは、今後は御社製のラジエーターを使うように指定すると言っていたが、今では日本中にある製鉄所で使われる変圧器に弊社ラジエーターが採用されています。

【五十嵐】2015年にタイへ進出していらっしゃいますが、その目的を教えてください。

【福元】これからも企業を永續させていく上で、①お客様のグローバル化に対応する②東南アジアの発展に役立ち、その成長も取り込んでいく③技術の伝承、を目的としました。特に③技術の伝承については、弊社にも優秀な技術者が入社しますが、製品開発や設備設計の機会が乏しく、経験を積んでもらうことができませんでした。そのため、弊社も海外で工場を作り、今後必要となるグローバル仕様のラジエーターを設計し、その製造設備づくりに積極的に関わってもらい、技術の伝承をしようと考えました。

伊勢神宮では20年に1回の式年遷宮によって、次世代へ技術を伝承しており、この考え方が参考になりました。

さらに最近では、お客様のBCP対策として、日本とタイとの2拠点で供給責任を果たしていくことも考えています。

ゆくゆくは、タイや東南アジアの電力インフラ

の向上に役立ち、ものづくりの『技術+心』を伝えていくことが出来ればうれしいと思っています。



《タイ現地法人》

《コロナ禍の影響》

【五十嵐】 現在(取材7月時点)、コロナ禍により経済活動に大きな影響が出ておりますが、御社はいかがでしょう。

【福元】 変圧器は数十年前に作られた製品の更新需要が多いため、計画から納入まで1年以上かかります。そのため、現在はコロナの影響がまだ出ていませんが、今後は更新の延期等による需要の減少が見込まれます。

【五十嵐】 厳しい経営環境ではありますが、逆に御社にとってビジネスチャンスもあるのでしょうか。

【福元】 海外調達がやりにくくなったこともあり、行き過ぎたグローバル化の見直しとして、国内での調達が増えることも考えられます。ただし、急に海外製から転注を受けても生産能力や人員が対応できないので、今後は、お客様とのより密接なコミュニケーションが必要と考えています。

【五十嵐】 外部環境の大きな変化であることは間違いありませんね。

【福元】 はい。コロナウイルスの影響により、大きく産業や人々の暮らしが変わりました。仮にコロナ禍が終息しても、これからも非常に困難な時代が続くと思いますが、人間の生命力や助け合う力を信じて生きていけば、きっと困難を克服でき、今以上に思いやりをもった社会になっていくと考えています。

【五十嵐】 ありがとうございました。今後もさらに発展されることを祈念しています。